

平成 28 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス				
教科目名	歴史	担当教員	中村史信	
学年学科	1 年 E・A 科	通年	必修	2 単位
学習・教育目標	(A-1) 100%		JABEE 基準 1 (1) (a) 50%、(f) 50%	
<b>授業の目標と期待される効果：</b> 『愚者は経験から学び、賢者は歴史から学ぶ』 『愛の反対は憎しみではなく無関心』  歴史を学ぶ目的は、現代社会(=無数の他者から成る世界)について関心をもち、知識と理解と深めることにある。 よって、この授業の目標を以下に定める。 1. 近現代(主に 17 世紀以降)の世界史を学ぶ。 2. 歴史用語の暗記に留まることなく、歴史の大きな流れ(因果関係)を論理的に説明する能力を習得する。 3. 現代の多様な国家・民族・文化および価値観について関心と理解を深める。		<b>成績評価の方法：</b> 以下の総得点 500 点に占める得点率で最終評価を行なう。  前期：中間試験 100 点＋期末試験 100 点＋課題提出 50 点 後期：中間試験 100 点＋期末試験 100 点＋課題提出 50 点  <b>達成度評価の基準：</b> 以下の各要素についての達成度を成績評価の基準とする。  1. 世界史の正確な知識を得たか。 2. 歴史の因果関係を論理的に説明する能力が身についたか。 3. 多様な文化や価値観への関心・理解が深まったか。		
<b>授業の進め方とアドバイス：</b> 教科書・資料集・プリントを用いた講義形式で行なう。具体的なアドバイスは次の通り。 (1)予習・復習は大切 (2)受講者の疑問に即して授業を進める(だからどんどん発言しよう) (3)毎日ニュースをチェックして時事問題を知る				
<b>教科書および参考書：</b> 『詳説世界史』(山川出版社)を教科書とし、『最新世界史図表タペストリー』(帝国書院)を副教材として使用する。その他、必要に応じてプリント等を配布する。また、関連する書籍や映画を紹介するのでできるだけ触れてほしい。				
<b>授業の概要と予定：前期</b>				AL のレベル
第 1 回：イントロダクション				
第 2 回：「世界の一体化」と近代世界システム				
第 3 回：産業革命				
第 4 回：環大西洋革命(1) アメリカ独立～フランス革命				
第 5 回：環大西洋革命(2) ナポレオン～ラテンアメリカ諸国の独立				
第 6 回：国民国家の成立				
第 7 回：グリム童話の誕生				
第 8 回：中間試験				
第 9 回：帝国主義への道				
第 10 回：激動の東アジア(1) 清朝末期～「西洋の衝撃」				
第 11 回：激動の東アジア(2) 日清戦争～日露戦争				
第 12 回：激動の東アジア(3) 韓国併合～辛亥革命				
第 13 回：第一次世界大戦(1) 背景～開戦				
第 14 回：第一次世界大戦(2) 終戦				
<b>期末試験</b>				
第 15 回：ヴェルサイユ・ワシントン体制(1) 戦間期のヨーロッパ				

授業の概要と予定：後期	ALのレベル
第16回：ヴェルサイユ＝ワシントン体制(2) 戦間期の東アジア	
第17回：世界恐慌	
第18回：ファシズムの台頭(1)	
第19回：ファシズムの台頭(2)	
第20回：日中戦争	
第21回：第二次世界大戦(1) 開戦	
第22回：第二次世界大戦(2) アジア・太平洋戦争	
第23回：中間試験	
第24回：第二次世界大戦(3) 終戦と戦後処理	
第25回：第二次世界大戦(4) 我々は何を聴き、語るべきか	
第26回：戦後世界秩序(1) 東西冷戦	
第27回：戦後世界秩序(2) アジア諸民族の独立	
第28回：冷戦後期(1) 米ソの対立激化～緊張緩和	
第29回：冷戦後期(2) 第三世界の台頭～冷戦崩壊	
期末試験	
第30回：現代の国際社会	

評価 (ルーブリック)

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
1	世界史の知識に関する問題を正確に答えられる(8割以上)	世界史の知識に関する問題をおおよそ正確に答えられる(6割程度)	世界史の知識に関する問題をほとんど正確に答えられない
2	歴史の因果関係を十分説明できる(8割程度)	歴史の因果関係をやや説明できる(6割程度)	歴史の因果関係のごく一部しか説明できない
3	多様な文化・価値観に対して、深い関心と理解をもつ	多様な文化・価値観に対して、やや関心と理解をもつ	多様な文化・価値観に対して、ほとんど関心と理解をもたない